



**茨城の誇るコシヒカリ**

現在、日本で生産・収穫されているお米は主なものに、ひとめぼれ、ヒノヒカリ、あきたこまち、といった品種がありますが、なかでもダントツの生産量を誇るのはコシヒカリです。

コシヒカリは福井県で生まれた品種で、「越の国に光り輝く米」という願いが込められ「コシヒカリ」と名付けられました（注・「越の国」とは福井県と新潟県地域のこと）。コシヒカリは生育するための適正地が広く、どこで作っても食味の良いお米が生産できることから広く生産されるようになり、現在では日本のお米全生産量のうちの約3分の1を占めています。茨城の豊かな大地と温暖な自然条件がおいしいコシヒカリを育て上げる大切な要因となっていますが、それ以上に生産者の努力があるからこそおいしさが高まつ

ているといえます。  
近年、生産量だけでなくコシヒカリの品質も一段と高まり、大子町や城里町の生産者の方々がお米の食味コンテストで日本一を獲得したこと、おいしいお米、茨城のコシヒカリの印象を高めています。  
皆さんもおいしい茨城のコシヒカリを食べて、茨城の大地の恵みと生産者の思いを味わってみてください。



# 特集 日本一おいしい! いばらきの コシヒカリ

関東一の米どころとして、安心・安全でおいしいお米を生産し、首都圏を中心に提供し続けている茨城県。  
特にコシヒカリの生産においては、そのおいしさとともに、多くの人たちに茨城のコシヒカリとして受け入れられています。  
ここでは、そんな茨城のおいしいコシヒカリの秘密を探ってみました。





「ななかいの里生産研究部会」です。昨年行われた「お米日本一コンテスト㏌しづおか2001」において最優秀賞を受賞。さらに同じ生産研究部会から優良賞も受賞と、2人の受賞者を出し「躍注目を集めたのが

研究部会での取り組みの成果であるコシヒカリの出来栄えを確認する、左から盛田守さん、部会長の仲田一司さん、富田昇さん

## ななかいの里生産研究部会 | 盛田 守さん 富田 昇さん



「ななかいの里生産研究部会」の皆さん方が作った特別栽培米「ななかいの里コシヒカリ」

**日本一のコシヒカリは地域と米づくりを愛する仲間たちとの賜**

地域全体が認められたダブル受賞

茨城県の中西部にある城里町。旧七会村地区がある地域は、標高150メートル前後の丘陵地帯に位置し、約8割が森林で占められている美しい自然の残る中山間地。この地も、先に紹介した大子町と同様に、水、土地、気候と自然に恵まれ、古くからおいしいお米が育つ場所として知られています。

この旧七会村地区で発足した「ななかいの里生産研究部会」は、安全・安心なお米を多くの人に届けようと、部員全員が「いばらき工コ農産物」を取得し、有機質肥料を使用したお米栽培を取り組んでいます。昨年の「お米日本一コンテスト㏌しづおか」において、見事に最優秀賞を受賞した盛田守さんと、優良賞を受賞した富田昇さんはともにこの研究部会に属し、おいしいコシヒカリづくりを目指す仲間でもあります。



中山間地に広がる田んぼ。ここには、おいしいコシヒカリを生み出す自然環境が整っている



「お米日本一コンテスト㏌しづおか2006」において最優秀賞を受賞したのは、茨城県の最北部にある大子町で、恵まれた自然のもと米づくりに情熱を燃やす親子がはぐくんだコシヒカリだった。

大久保さん親子に従業員の方を加えた3人で約20ヘクタールの田んぼを管理している

## 大久保農園 | 大久保憲治さん 秀和さん



左から大久保憲治さん、奥様の三枝子さん、そして秀和さん



丘陵の間に広がる大子町の田んぼ。この豊かな土地で日本一のコシヒカリが生まれた



大久保農園のコシヒカリ「大久保農園の米」「日波(ひわたし)の米」。そして自ら育てたお米で作られた「穂内郷(ほないごう)」と日本酒「穂内郷」

茨城県で初の最優秀賞受賞  
古くからおいしいお米の产地として知られていた大子町は、清流久慈川が流れ、いくつもの支流が田んぼを潤す豊かな水の恵みを受けてきた土地。そして、豊かな土と昼夜の寒暖の気温差が、おいしい野菜や米を作り出す源となっている。

この地で、代々米づくりに携わってきた大久保さん一家。秀和さんと父である憲治さんを中心に、現在は約20ヘクタールの田んぼで米づくりを行っている。

自分たちが作っている米がおいしいのはわかっている、しかし実際にそのおいしさは測りようもない……」情熱をもって研究し取り組んでいる自分たちの米づくり。果たしてそれが

どんなレベルにあり、ひとつの指標としての結果が出るのなら。そして自分たちのコシヒカリが認知してもらえるなら。そんな思いの中で2006年に「お米日本一コンテスト㏌しづおか」に自慢のコシヒカリを出品したところ、なんと最優秀賞を受賞。これは茨城県で初の快挙だった。

「昔からの米ぬかをベースとしたオリジナル肥料を使い、丁寧な米づくりを行ふ。あとは豊かな土地と気候が育ててくれます」

米づくりについてあつさりと語る秀和さんだが、その奥に秘められた情熱は、新たなチャレンジとして日本酒づくりやそばづくりへ発展し、とどまるところを知らないようです。

奥久慈大子町の自然と親子の情熱がこもった日本一のコシヒカリ

## 筑波山の四季・秋

筑波嶺の  
峯のもみぢ葉  
おち積り  
知るも知らぬも  
なべてかなしも

読人しらず 古今和歌集



# Photo Gallery

## 読者のフォトギャラリー

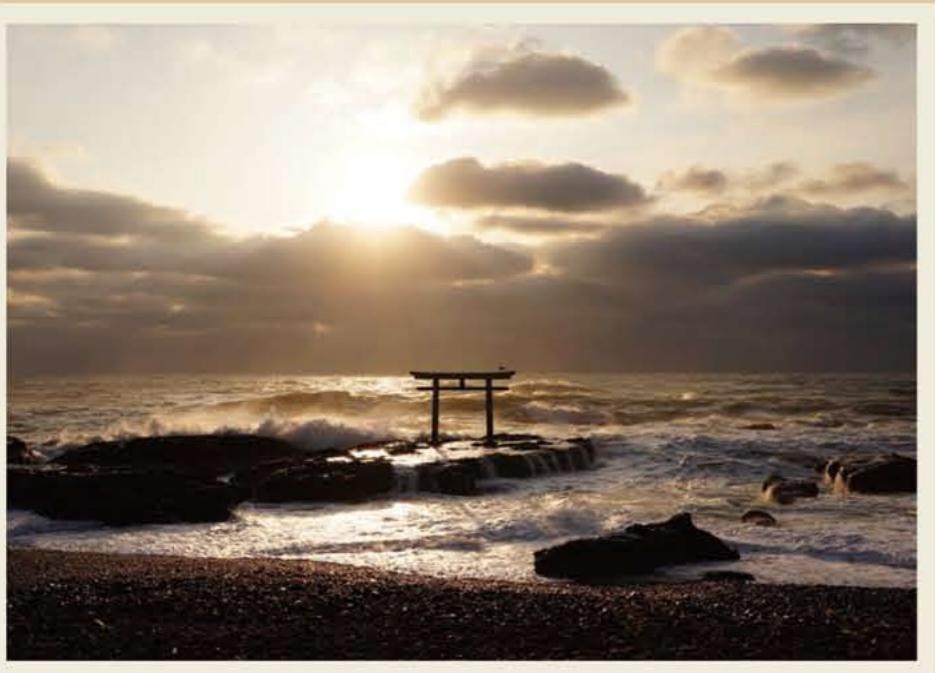
今回のテーマ 私の自慢したい茨城のスポット

「フォトイばらき」では、読者の皆さんのが撮影した、美しくて楽しくて多くの人に見てほしい、そんないばらきの魅力を伝える写真を募集しています。さらにインターネット上のfacebook「いばらきの魅力を伝えたい」とリンクしながら、読者の皆さんの写真を紹介していきます。

沈下橋

東京都 田中啓司さん

久慈川に架かる沈下橋。久慈川上流部にはいくつもの沈下橋があり、自然と人々の生活が融合しているようです。



朝日を浴びる大洗磯前神社

東京都 板岡秀三さん

ネットでこの写真を見て、泊りがけで行った時のものです。



田園風景

阿見町 古澤 翔さん

いつもの自宅近くの散歩道。田んぼの緑美しい風景です。



潮来潮音寺万燈会の光

鹿嶋市 森 由紀子さん

潮来の潮音寺での万燈会。一つひとつ灯りに込められた祈りと、この会場を作ったボランティアの方々の思いに感動。



愛宕山からの眺望

水戸市 右島綾香さん

天狗が住むといわれる愛宕山から見た風景です。茨城百景にも選ばれており、美しい自然を見ることができます。



静かなる静神社

水戸市 森 浩一郎さん

那珂市の静神社。神々しい木々に包まれた山道の向こうに本殿があります。



鮎釣り師の競演

水戸市 加藤桂子さん

大子町にて、鮎釣り師たちが山と川に溶け込んでいるようでした。

募集テーマは引き続き「私の自慢したい茨城のスポット」です。

### フォトギャラリー応募方法

#### ●facebookで送る

facebook「茨城の魅力を伝えたい」へ送信▶<http://www.facebook.com/ibaraki.pr>

インターネット上のfacebook「茨城の魅力を伝えたい」に写真を添付して、右記内容のとおりにお送りください。

#### ●フォトイばらき編集室へメールで送る

フォトイばらき編集室▶[ibaraki@7oaks.co.jp](mailto:ibaraki@7oaks.co.jp)

写真を添付して、右記内容のとおりにお送りください。

#### ●フォトイばらき編集室へプリント写真もしくはデータCDを郵送で送る

以下の宛先まで、右記内容のとおりにお送りください。

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978-6 茨城県広報広聴課「いばらきの魅力を伝えたいフォトコンテスト」係

#### ●締め切りは2月28日(必着)

次回「新年号」では特別企画を展開するため「読者のフォトギャラリー」はお休みとなり「春季号」での紹介となります。

いずれの場合も、氏名・住所・電話番号・写真タイトルと撮影場所、そして簡単なコメント(50字以内)を記載してお送りください。写真データとして送る場合は、データサイズは1MB(1000KB)以内とし、画像フォーマットはJPEG等画像ファイルにしてください。誌面では写真とコメント、お名前、お住まいの市町村名を掲載させていただきます。写真が掲載された方には、マガジンハウスの「オリジナル・エコバッグ」をプレゼント。皆さんからの、いばらきの魅力を伝える写真をお待ちしています。



でつこじゅつめりみついしもんほどけにまいぞく  
鉄黒漆塗三石紋仮二枚胴具足  
政直が所用した鎧

(土浦市立博物館所蔵 市指定文化財)

写真提供:土浦市立博物館



土浦城櫓門  
本丸、二の丸の遺跡とともに県指定文化財とされている



土浦の貴重な資料を見ることができる土浦市立博物館



福禄寿之図  
政直筆の絵として現時点  
で唯一残されているもの  
(土浦市立博物館所蔵)

写真提供:土浦市立博物館

## 老中・土浦藩主 **土屋政直**

つちや まさなお / 1641年～1722年

**内政と外交に業績を残す**

土浦市一帯を治めていた土浦藩主だった土屋政直は、老中として徳川幕府

五代綱吉から八代吉宗まで4人の将軍に仕えた人物です。土屋家の初代で土浦藩主となつた数直の跡を継いだ政直は、大名が將軍に謁見する際に、その姓名献上品を披露する役目の奏者番、大坂城代、京都所司代と幕府内での位を上げていき、1687年から1718年までの30年以上もの間、老中の職を勤めています。

この頃の幕政はすでに安定しており、歴史に大きく名を残すような目立った事柄は見受けられません。しかし、朝鮮通信使担当老中として朝鮮からの使節の受け入れや、対馬藩との交易に関して大きな役割を果たすなど、30余る長期間老中職を勤めたということは、幕政内の実務面で有能な力を發揮していたことがうかがえます。

また、学問や文化に興じた面をもつており、茶の湯には特に傾倒していました。茶会を開いたり、多くの茶道具を収集したとされています。

茶の湯の心がけを武士の日常にも用いなさい、と語っていたという逸話が残されていることから、文化人としての老中政直の一面もうかがい知ることができます。

土浦市立博物館  
土浦市中央1-15-18  
TEL.029-824-2928

## 第6回 いばらきの歴史再発見 **幕府を動かした殿様たち**

Photo:Takehiko Maekawa

古河歴史博物館  
古河市中央町3-10-56  
TEL.028-22-5211

茨城において江戸時代、徳川幕府を語るとき水戸光圀は欠くことのできない偉人です。しかし、徳川幕府前半期に大老・老中として幕政を動かしていた土井利勝と土屋政直がいたことを忘れることはできません。女性特派員の金子みどりさんが、ふたりの歴史を探ります。



大老と老中  
いばらき女性特派員  
金子みどりさん

古河御城内外惣繪図  
古河城とその城下の街並みを描いた絵図  
(古河歴史博物館所蔵)  
写真提供:古河歴史博物館

土井利勝画像  
(正定寺所蔵 県指定文化財)  
写真提供:古河歴史博物館

1633年、16万石を授かり古河藩城主となつた利勝は、2年間におよぶ修築を行い古河城を完成させています。この時に天守閣に相当する御三階櫓を建てていますが、現在は古河歴史博物館のある出城跡地に、その当時の名残を感じることができます。

江戸時代の街並みのジオラマなど歴史資料が展示された古河歴史博物館

## 大老・古河藩主 **土井利勝**

といとしきつ / 1573年～1644年

**幕府の基礎固めを行う**

徳川家康から二代秀忠、三代家光と徳川幕府に仕え、幕政初期に組織の基礎を固めたのが土井利勝です。利勝は、家康の伯父である水野信元の子として生まれています。しかし、系図には徳川家臣・土井利昌の子と記されていて、徳川家康の子といわれるなど、出生に関してはいくつかの説があります。

家康に仕え、秀忠の傅役(教育係)に命じられるなど、徳川家の側近として早くから活躍。幕府の実力者となって、一国一城令や武家諸法度の制定にも携わっています。二代秀忠の時に年寄となり、大名からの嘆願を將軍に伝える取次役を担うなど絶大な権力を握り、多くの大名が縁組みを願い出たという話もあるほどです。これは、利勝が幕府内で信頼され、事務的にも政治的にも能力が高かつたことを示しているのではないかでしょうか。三代家光の時には幕府最初の大老となっています。利勝66歳の時です。

古河城御三階櫓  
取り壊される前の明治3年に撮影  
(撮影:武藤松庵 古河歴史博物館所蔵)  
写真提供:古河歴史博物館

江戸時代の街並みのジオラマなど歴史資料が展示された古河歴史博物館

## 大老・古河藩主 **土井利勝**

といとしきつ / 1573年～1644年

**幕府の基礎固めを行う**

徳川家康から二代秀忠、三代家光と徳川幕府に仕え、幕政初期に組織の基礎を固めたのが土井利勝です。利勝は、家康の伯父である水野信元の子として生まれています。しかし、系図には徳川家臣・土井利昌の子と記されていて、徳川家康の子といわれるなど、出生に関してはいくつかの説があります。

家康に仕え、秀忠の傅役(教育係)に命じられるなど、徳川家の側近として早くから活躍。幕府の実力者となって、一国一城令や武家諸法度の制定にも携わっています。二代秀忠の時に年寄となり、大名からの嘆願を將軍に伝える取次役を担うなど絶大な権力を握り、多くの大名が縁組みを願い出たという話もあるほどです。これは、利勝が幕府内で信頼され、事務的にも政治的にも能力が高かつたことを示しているのではないかでしょうか。三代家光の時には幕府最初の大老となっています。利勝66歳の時です。

1633年、16万石を授かり古河藩城主となつた利勝は、2年間におよぶ修築を行い古河城を完成させています。この時に天守閣に相当する御三階櫓を建てていますが、現在は古河歴史博物館のある出城跡地に、その当時の名残を感じることができます。

11

10

# わが街自慢

鳥羽  
かくれんぼ

取手市

白山かくれんぼ  
営業時間 月～木曜16:00～19:00、  
金～土曜16:00～22:00(日・祝日定休)  
取手市白山3-2-1  
TEL.0297-77-7037  
鳥羽かくれんぼ 150円



**取手市**にある東京芸大の学生も参加し、街おこしのひとつとして開発されたのが「鳥羽かくれんぼ」です。手羽先にある2本の骨を抜いて、地元のコシヒカリをおいしく炊き込んだまぜごはんを中に入れて油で揚げ、これを塩だれ、味噌だれの2種類のたれをつけていただけます。具材が隠れているので「鳥羽かくれんぼ」と名付けられたおいしい一品をお試しください。  
(白山かくれんぼ 澤井和男さん 岡本静子さん)

フランス菓子工房  
コート・ダジュール  
営業時間9:30～19:30(火曜定休)  
つくば市東新井19-26  
TEL.0120-58-3094  
北条米シフォン 1,000円

北条米  
シフォン  
つくば市

le Centre  
Côte d'Azur!  
DEPUIS 1991



**地元**特産を使ったスイーツができないかと考え作ったのが、つくば市が行う「つくばコレクション」認定品にもなっている「北条米シフォン」です。名前のとおり、筑波山麓で作られる特別栽培米「北条米」の米粉を加えたシフォンケーキで、ふわふわに焼き上がった生地の中にアルデンテ風に仕上げたお米の粒が入っており、食べたときに軽く当たる食感がアクセントになっています。  
(コート・ダジュール 中山満男さん)

Photo:Takehiko Maekawa

フォトイバラキ読者アンケート アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で3名の方に、  
アクアワールド茨城県大洗水族館のペアチケットを差し上げます。▶締め切りは11月30日(金)到着分

フォトイバラキ読者アンケートにご協力ください。  
インターネット、携帯電話、PHSからもご利用可能です。

## 1.インターネット・携帯から

フォトイバラキのページにある「アンケート」の項目をクリックして、  
アンケートページへお進みください。

## ■インターネットホームページ

茨城県のホームページから、もしくは主要検索  
サイトから「フォトイバラキ」で検索し、アンケ  
ートページへ。

フォトイバラキ 検索

## ■携帯電話用QRコード



## 2.ハガキで

以下の項目をご記入の上、質問に関する番号を明記してご応募ください。

### ■送り先

〒310-8555 水戸市笠原町978-6 茨城県広報広聴課「フォトイバラキ」担当

### ■以下の項目を必ずご記入ください

●お名前(ふりがな) ●性別 ●年齢 ●郵便番号 ●ご住所 ●お電話番号

### ■本誌に対する以下の質問にお答えください

●質問1 あなたが面白いと感じた記事をお選びください(複数可)

①日本一おいしい! いばらきのコシヒカリ ②筑波山の四季・秋 ③読者のフォトギャラリー

④いばらきの歴史再発見 ⑤わが街自慢

●質問2 今後取り上げてほしいテーマは?

●質問3 本誌に対するご意見・ご感想

フォトイバラキは年4回発行しています。  
次号(新年号)No.590は1月1日発行予定です。

県の広報紙へ広告を掲載しませんか!

フォトイバラキは、県内の公共施設、理美容店、銀行、病院などに置いてあります。

県では、広報紙「ひばり」、グラフ誌「フォトイバラキ」への広告掲載を募集しています。  
詳しくは県広報広聴課 TEL.029-301-2128までお問い合わせください。